

みなみあそ ダイアリー

「社会を明るくする運動」伝達式

7月の「社会を明るくする運動」強調月間」に合わせ、啓発活動の一環として総理大臣および熊本県知事からのメッセージ伝達式が行われました。

この運動は、すべての国民が協力し、犯罪や非行のない明るい社会を築くことを目指した全国的な取り組みです。

村では阿蘇地区保護司会南部分会や村更生保護女性会の会員を中心に活動されています。伝達式後に開催された意見交換会では、「更生保護への理解を深めるため、引き続き積極的に活動を続けていきたい」という抱負が述べられ、

平和で安全な村づくりに向けた想いが語られました。

今後も小中学生の登校見守り活動、やあいさつ運動、非行防止・薬物乱用防止に向けた啓発活動などが継続的に実施される予定です。



阿蘇地区保護司会南部分会・村更生保護女性会の皆さん

産官学連携協議会を設立

村と東海大学、南阿蘇村商工会は、6月24日に「南阿蘇村・産官学連携協議会」の設立総会を開き、村が持つ自然環境・農地・研究資源を活かした地域課題の解決や産業振興、次世代人材育成、持続可能な地域社会の形成を目指すことを確認しました。当日は、協議会の活動にご賛同いただき、村への企業版ふるさと納税にご寄付いただいた企業の皆さんに対し、村より感謝状を贈呈しました。

協議会は東海大学阿蘇実習フィールドを拠点に、農業・DX・人材育成の3分科会を新設。農業分科会は次世代畜産・農業や付加価値化、DX分科会はロボティクス・AI活用や再生可能エネルギー、人材育成分科会は高校・大学連携や移住支援に取り組み、県内外の企業や農家、教育機関などとともに活動を進めることとしています。

【寄付をいただいた企業】

㈱セルモ様・㈱古荘本店様・熊本ヤマハ㈱様・ユナイテッドトヨタ熊本

㈱様



太田村長と木之内均東海大学九州キャンパス長(右から5番目)他、関係者

村巡回相談および 就学支援会議

村は「すべての子どもが安心して自分らしく育ち、多様性を尊重して共に生きる村」を目指し、「村巡回相談および就学支援会議」を実施しました。

当日は、村の小中学校、教育委員会、児童発達支援センターの担当者、および県就学支援アドバイザーらが村内の3保育園を合同で訪問。保育活動を直接観察する中で、一人一人の子どもたちの姿を共有しました。

集団で穏やかに集中する「お集まり」、勝ち負けに向き合い友だちと関わる「椅子取りゲーム」、そして好きな遊びに没頭する「自由遊び」など、場面ごとに子どもたちの個性が光る生き生きとした姿が見られました。参加者らは、こうした子どもたちの姿を見守りながら、それぞれの子どもにとって最適な支援のあり方について協議を深めました。

今後も連携を通じ、就学に向けた滑らかな接続と、より良い支援体制の構築を目指します。



ちょうよう保育園年長あか組での巡回相談

ソラシドエアと 「コキア畑プロジェクト」を 共同展開

村と株式会社ソラシドエアは、地域振興および観光振興の一環として、「道の駅あそ望の郷くぎの」が取り組んでいる「コキア畑プロジェクト」を共同で展開することとなりました。

同社とは、2年前に地域社会発展に寄与することを目的とした包括連携協定を締結していて、今回の連携企画では、太田村長とソラシドエアの山崎真作代表取締役社長が、道の駅でコキアの植栽を行いました。道の駅では震災後の地域再生を象徴する取り組みとして、3年前よりコキアの植栽を実施していて、今年は過去最多となる7000本の苗が植栽されています。

山崎代表取締役社長は「夏は緑、秋は真っ赤になったコキアを見るのが楽しみです。村の観光拠点として、さらに盛り上げることを期待しています」と話されました。村と同社は今後も連携して、地域の発展や魅力発信などに取り組みます。



太田村長と山崎真作代表取締役社長(写真前列右)ら関係者

保育園児へ トマトの贈り物



J A 阿蘇南部トマト部会から村内の3保育園へ、地元産の箱いっぱいトマトが贈呈されました。この取り組みは毎年行われていて、子どもたちに新鮮なトマトを味わってもらい、健やかに成長してほしいとの願いが込められています。

はくすい保育園では、松村千秋園長の「トマトが好きな人」との問いに、ほとんどの園児が元氣よく挙手。部会員から代表園児へトマトが手渡されると、園児たちは「ありがとうございました」と元氣いっぱい感謝の気持ちを伝えました。

部会員は「暑い夏ですが、トマトをたくさん食べて元氣に過ごしてほしいです」と話され、園児の成長に期待を寄せていました。



採れたてのトマトを受け取る園児

南阿蘇湯の谷地熱発電所を 見学



南阿蘇西小学校4年生が、社会科見学の 일환として、南阿蘇湯の谷地熱発電所を見学しました。この授業は、地域の自然資源を生かした地熱発電への理解を深め、電気の大切さや環境について学ぶことを目的として行われました。

当日、児童たちは普段は見ることのできない施設を巡りながら、発電所の職員から地熱発電の仕組みや設備の役割、電気が家庭に届くまでの流れなどについて説明を受けました。

見学後、佐藤沙羅さんは「蒸気がある限り電気は作り続けられると知って驚きました。これからも電気を大切にしたいです」と話されました。今回の見学は、持続可能なエネルギーについて学ぶ貴重な機会となりました。



地熱発電への理解を深めた南阿蘇西小学校4年生

起業体験プログラム 「投資家説明会」を 実施



南阿蘇中学校第一体育館で、起業体験プログラムの発表が行われました。これは今年度から行っているプログラムで、中学生が会社を経営するという設定のもと、村の現状や将来について経済活動を通して考える機会とするとともに、成果発表や販売といった体験を積むことで、個々のキャリア形成に繋げることを目的としています。

現在、中学1・2年生の生徒たちが15チームに分かれて株式会社を起業中。この日は授業参観の時間で、地域の事業者と保護者を投資家役として招き、説明会を行いました。

生徒たちは自分たちで考えたそれぞれの会社のコンセプトや商品、必要な投資金などを説明。説明後、投資家役の皆さんから実際のオペレーションや価格設定について質問やアドバイスをいただきました。会の最後には、実際に投資家役に投資金を呼びかけ、事業への賛同と支援を得ることができました。株式会社「幸せのひとくち」社長の谷口成太郎さんは、「投資家説明会では、たくさんの方々が来てくださいました。同じ会社のメンバーと協力して発表できたので、よかったです。これから、さらに良い商品を作り出す」と笑顔を見せられました。

完成した商品は、10月31日(土)に南阿蘇中学校体育館などで開催される「あつまり〜ん祭」で実践販売される予定です。



プレゼンを行う生徒



保護者からの質問を受ける生徒たち

ディスプレイネーション キャンペーンで村の PRを行いました



7月から9月にかけて、「熊本ディスプレイネーションキャンペーン」2026が開催されています。このキャンペーンは、JRグループと県、および地域の観光事業者が一体となつて集約的な広告活動や旅行商品の販売を展開し、全国から多くの観光客を誘致することを目的としています。

村も、7月4日と5日に熊本駅前広場でのオープニングイベントに参加。太田村長がオープニング記念号の乗客を出迎え、PRブースでは特産物の販売や村の公式キャラクターであるブルとミルリのバジ配布などを実施し、多くの来場者に村の魅力をアピールしました。



村の特産品販売ブース

東海大学九州キャンパス 硬式野球部が役場を訪問



第3回南部九州大学野球選手権大会で優勝し、3年連続で全国大会に出場した東海大学九州キャンパス硬式野球部が、役場を訪問しました。全国大会では一回戦で中京大学（愛知県）に勝利し、20年ぶりに二回戦へ進出。二回戦では惜しくも富士大学（岩手県）に1対2で敗れましたが、ベスト16入りを果たしました。

林田監督は、「全国大会では目標としていたベスト4には届きませんでした。が、選手たちは最後まで諦めず全力で戦い抜き、ベスト16という結果を残すことができました。今後もさらなる飛躍を目指して精進してまいりますので、引き続き応援をお願いいたします」との想いを述べられました。



太田村長に結果報告を行った東海大学九州キャンパス硬式野球部関係者

あか牛の絵本を 出版・寄贈



旧長陽村であか牛肥育牧場の場長として10年間勤務し、約3000頭を出荷するなど畜産業に貢献された末石清昌さんが、4月に出版された自署絵本を村に寄贈されました。

現在、末石さんは福岡市在住。熊本地震をきっかけに「阿蘇の人たちとか牛に恩返しをしたい」と強く想われ、自身の阿蘇での経験をもとに約10年かけて制作に取り組みされました。

今回出版された絵本のタイトルは「ミッチんちはサザナン牧場」。牧場で暮らす女の子のもとへ遊びに来た男の子が、触れ合いを通じて牛や馬に餌をあげられるようになった姿が描かれています。末石さんは「続編も予定しているので楽しみに待っていてほしいです」と話されました。絵本は今後、村図書室や学校などで活用される予定です。



絵本と原画を手にする太田村長と末石清昌さん（写真右）

長陽駅七夕飾り



長陽駅にて、通いの場「喜多わくわく会」の皆さんによる七夕の飾り付けが行われました。この取り組みは七夕を祝うだけでなく、毎年7月15日の南阿蘇鉄道全線運転再開を記念して飾られています。

当日は、参加された皆さんが願い事や全線運転再開を祝うメッセージを書いた短冊を持ち寄り、一つ一つ飾り付けました。長陽駅の出入口は色鮮やかな短冊で華やかに彩られ、駅の利用者も短冊を眺めていました。

喜多わくわく会の皆さんは「七夕飾りで季節を感じる事ができて嬉しい」「長陽駅が賑やかになって心が明るくなった」などと話されていました。



七夕飾りと喜多わくわく会の皆さん